

## IV

# 本年度前半の記録

Records in the first half of this year

### 1. 一年生

オリエンテーション・講演会、特別授業

フィールドワーク・PESTゼミ・GE

### 2. 二年生

PESTゼミ・シナリオプランニング・GE

※この章の英語版は別冊となっています。

The English version of this chapter is separately bound.



# 1. 一年生

## 1年 ①オリエンテーション・G-Mission

### 【意義・ねらい】

- ・総合的な学習の時間の雰囲気を感じ取る。
- ・グローバルコース生としての自覚を持たせる。
- ・パソコンの使用や著作権など、今後活動する上で注意すべき事を覚える。
- ・明確な正答が存在しない問いに取り組む姿勢を身につける。

『議論をする上での五箇条』『講演を聴く上での五箇条』を考えて発表し、投票の後一つに絞るという作業を行った。ブレインストーミングの手法で発散と収束を行いながら班の意見として一つにまとめるという作業を行った。

### 【授業の流れ】

入学式	G-Mission 1 を配布し個人でそれぞれの五箇条を考える
1 回目	各班ごとにまとめた案の一覧を見て重複する項目を整理する
2 回目	各班で議論・講演の五箇条をまとめていく
3 回目	各班による五箇条のプレゼンと投票
4 回目	情報収集の方法やPCを利用していく上での注意
5 回目	オリエンテーションの総括を今後の課題を提示
6 回目	一枚の写真を見てその、写真の分析を班員で議論する
7 回目	前回の議論を発展させ、二百字の文章に仕上げる。

### 【生徒作品・成果物】

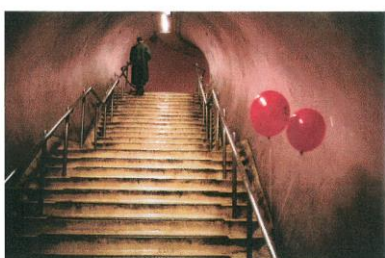
**議論をする上でのルール五箇条**

- 一. 論理的で明確な意見を用意する
- 一. 相手に伝わる声量と発声
- 一. 相手の意見も尊重する
- 一. 感情的にならず、冷静さを保つ
- 一. 議論の際に私情を挟まない

**講演を聴く上でのルール五箇条**

- 一. 講演の内容について調べておく
- 一. マナーを守る
- 一. 自分の意見と比較する
- 一. 疑問を残さないよう質問する
- 一. 講演の内容をまとめる

グローバルコースオリエンテーション  
キングクロス駅の写真分析 最終報告書



2016.5

4班
私達はこの階段を近代化社会と捉えた。中央の光は輝かしい工業発展を表している。しかしその背景には様々な苦悩が存在する。子供の象徴である風船の束縛は当時の自由なき強制労働の悲しみを示す。また大人も子供の境遇を理解している為、堂々と中央を歩けない、つまり国の発展を素直に喜べないという後ろめたさを抱えている。行く先の曲がる道は、村長に対する不安を表している。よって、これりの不安が明暗の配置を決定している。

**【生徒の感想】**

- すべて授業中に課題が終わりませんでした。積極的に意見を出し、吟味することは大事ですが、授業内で最も良い内容にまとめ上げることが求められているので、次の単元では効率よく、授業内で提出できるようにしたいです。
- この単元を通じて学んだことは、協力し合うことの大切さである。みんなで協力し、議論し合うことで自分には見えなかった部分を発見することができた。また、メンバーとの仲を深めることもできた。上手くいかないこともあったが、これもまた協力し合うことでなんとかやり遂げることができた。この五回の授業で色々なことを学ぶことができ、とても意義あるものになったと思う。

**【講評】**

様々な意見を集約していくという作業の中で、意見をまとめることの難しさや、発展的な議論を導く難しさを体験できた。その点では当初の狙いは果たせたと言える。ただ、1つ1つの作業において、予想以上に時間がかかってしまい、授業時間外に作業を持ち越すことが多くなったのも事実である。生徒の現状を十分に把握し、計画する必要があった。

## 1年 ②講演会・特別授業

### 1、グローバル人材のための思考技法

講師：立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科 湊 宣明 准教授

日時：平成28年5月13日（金） 15：20～16：10

内容：①発散と収束という思考技法について

②ブレイクスルーが起きるような発明はメンバーの多様性から起こるという調査結果をもとに、多様な成員での議論が大切であることを学ぶ

③上記2点を受けて、具体的にグループでブレインストーミングを行ってみる。



### 2. Political

講師：関西学院大学 国際学部 吉村 祥子 教授

日時：平成28年5月27日（金） 15：20～16：10

内容：①吉村先生より「国際連合（国連）とは何だろう」をテーマに講演していただいた。

②講演後、「世界の国々とのつながり」に関するアクティビティをしていただいた。



### 3. Economics

講師：関西学院大学 イノベーション研究センター 土井 教之 教授

日時：平成28年7月1日（金）15：20～16：10

- 内容：①日常の疑問を経済学で考える視点について  
②エネルギー分野の経済のしくみについて  
③エネルギー分野の企業・産業について  
④企業・産業の経済分析の方法について



### 4. Societal

講師：関西学院大学 社会学部 村田 泰子 准教授

日時：平成28年10月7日（金）15：20～16：10

- 内容：①社会学という学問領域について  
②母乳育児に関する調査結果からの分析



## 1年 ③フィールドワーク

### 1. Societal

講師：関西学院大学 社会学部 村田 泰子 准教授

日時：平成28年7月12日（火）9：30～12：00

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

参加者：高校1年 グローバルコース生（19名）

テーマ：「子育て期の家族と社会」

内容：①母親は子が三歳になるまで子育てに専念すべきという「三歳児神話」についての講義。

②上記①を基に、2班に分かれ中国人留学生に中国での子育てと家族についてインタビュー

③インタビューを班でまとめ、その内容を報告する



### 2. Political

講師：関西学院大学 国際学部 吉村 祥子 教授

日時：平成28年7月12日（火）13：30～16：30

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

参加者：高校1年 グローバルコース生（20名）

テーマ：「テロと国際社会」

内容：①関西学院大学の吉村先生のゼミ生7名、他校のSGH生3名と一緒にブレインストーミング

・「テロ」から連想される言葉をブレインストーミング、その後分類。

・国連による経済制裁や防止策

・「テロ」と「戦争」の違いは何か。テロの目的は何か。今後の課題は？

②関西学院大学の生徒が9月に行う90分の発表の構成を一緒に考える。

③7つの班に分かれてグループディスカッション（大学生活について）



### 3.Technological

講 師：産業技術総合研究所関西センター 無機機能材料研究部門 堀内 哲也 研究員

日 時：平成28年7月22日（火）14：00～16：30

場 所：産業技術総合研究所関西センター

参加者：高校1年 グローバルコース生（20名）

テーマ：「アイデアとコンセプト」

内 容：①「犬のおもちゃ」をテーマに商品を発案する。（ブレインストーミング）

②電子顕微鏡などの設備見学



前期は Political（政治学的分野）と Societal（社会学的分野）を行いました。

### 1) Political（政治学的分野）

#### 【意義・ねらい】

- ・ 他国の文化に関する関心を高め、異文化を持つ者同士でより良い関係を築くために必要なことを考える。
- ・ 調査、発表などに必要な技能を高める。
- ・ グループ活動を通して、課題解決力や問題解決能力を養う。

国際政治に関する理解を深める取り組みとして、最終的に「模擬国連」参加に向けての練習課題に取り組む。そのための演習課題として、昨年度に引き続き「国連弁当」を題材にした。国連会議の合間に同じ弁当を食べるとするとどのような弁当が適当か考える課題である。メニューを考えるには世界各国の食文化、経済状況、国の産業など様々なことを考える必要がある。事例のない架空の話題であるだけに難度の高い課題であるが、前例にとらわれることなく、新しいものを考えていける課題でもある。今年度は、中国・インド・トルコ・コートジボワール・ロシア・アメリカ・ブラジル・トンガの8国が中心となって国連弁当の会議を行っているという想定で課題に取り組んだ。

#### 【授業の流れと生徒の感想】

回	内容	生徒の感想等
1回目	ガイダンス	どの国でもたべれるような料理も作らないといけないし、その国の文化に沿った料理を考えなければいけないという難しいものだけでもみんなと協力していいものができるようにしたいです
2回目	Position Paper (国の基礎情報)作成	自分たちの班の国は全く知らなかった国なので調べがいがあり、たくさんのことを Word にまとめなければならぬので大変ですが、頑張って発表できるようにしたいです。
3回目	Position Paper 発表	いろんな班の発表がきけてよかった。いろんな班の発表を聞くことで改善点などいろいろ参考になった。
4回目	政策立案（1）	改めて他の国を通して、共通の食事をとることの難しさを実感しました。宗教上の問題だけでなく、ベジタリアンなどの食習慣も考慮しなければならないことがたくさんありました。
5回目	政策立案（2） 中間報告	国連弁当のように実在しないものは、どうするか事例がなく（先輩方の考えたものはありますが。）考えごたえや、固定観念に縛られることが少ないので新しい、見たことのないアイデアがでる余地があるので、頑張ります。
6回目	政策立案（3）	今回の授業では、今まで出た案を具体的にしていき、ワードで打ち込む作業をしました。書いてる途中でかなり方針が変わったりと、混乱もありました… 次回の発表に向けて、しっかり準備していきたいと思います。
7回目	決議案発表	同じ課題なのに、発表の内容や仕方に深さと違いが感じられ良い刺激となりました。
8回目	決議案修正 まとめ	今日は他の班からの意見を聞いて修正したりした。今回でポリティカルは終わりだけでもこの勉強によっていろんな宗教のタブーやマナーなどを知れたので良い経験になったと思います。



【生徒作品・成果物】 7回目の発表会での各班のメニュー

中国	4 班	・エビチリ ・天津飯 ・フカヒレスープ ・中国茶 ・杏仁豆腐
	12 班	・棒棒鶏(バンバンジー) ・葱油餅(ネギお焼き) ・香露燉花菇(しいたけの蒸しスープ) ・酸辣菜(キャベツの唐辛子和え) ・マンゴープリン ・杏仁豆腐 ・飲茶
インド	6 班	・豆のムース ・サモサ ・野菜カレー ・ナン ・カボチャの芋詰め ・大豆ハンバーグ ・豆乳ゼリーの果実添え ・水
	15 班	・ビーツのローストを添えたインド風サラダ ・カレーのビュッフェ ・ハニーチャパティのアイスのせ
トルコ	7 班	・サラダ ・(魚メイン) 鯖サンド / (肉メイン) ケバブサンド ・バクラヴァ ・トルココーヒー
	14 班	(主食)パスタ入りバターライス (主菜) シシ・ケバブ or ドルマ (副菜)イヌーム・バユルドゥ, カバック・ドルマス (デザート)トルコアイス, さくらんぼのゼリー
コートジボワール	1 班	・豆カレー (ナンをつけて食べる) ・じゃがいものガレット ・(お好みで)チョコアイス&コーヒー
	10 班	・アチュケ ・ニョン ・ポテトサラダ ・魚のフライ ・アイスクリーム ・クフトゥ ・カレー ・コーヒー ・水
ロシア	8 班	・スケトウダラの干物 ・ピロシキ ・ボルシチ ・ひまわりの種クッキー
	9 班	・フォルシュマーク ・ピロシキ ・ウハー ・ブリヌィ ・ロシアンティー
アメリカ	5 班	・おからハンバーグのサンドイッチ ・ポテトサラダのサンドイッチ ・3種のジャムサンドイッチ (ストロベリー, ブルーベリー, マーマレード) ・野菜スムージー
	13 班	・ハンバーガー ・ポテト ・コブサラダ ・リンゴ ・天然水 ・コーヒー
ブラジル	3 班	・レタスとトマトのサラダ ・シュレスコ風串焼き ・キャッサバのパン ・フルーツカット ・ドリンク
	16 班	・ライス ・フェイジョアーダ/フェイジョン ・ヴァタパ ・コールスロー ・シュラスコ/ポレンタ ・アサイー
トンガ	2 班	(前菜)クマラの色どりサラダ (スープ)カボチャの冷製スープ (メイン)マグロのタリアート (デザート)ヴァニラアイス
	11 班	・カボチャのアイスクリーム ・ペレ ・メイチップス ・ファイカカイ ・ウム料理

【講評】

・一見易しそうにみえて、実際取り組んでいくと色々な問題点にぶつかる難度の高い課題である。まだ改善点も見られる状況ではあるが、一つの弁当の案に到達できたことは大いに評価できる。多くの国が関わっている以上、問題点の残られない弁当というのは考え難い。それが、政治の実際であり、より多くの人にとってよいものになるようにしていくという政治の姿勢を学べたのだとも感じている。今年度は、各国が案を出した後の交渉の時間をとることができず、発表を聞いてのコメントのやり取りにとどまってしまった。

・今回は各クラスを8班にわけて活動を行った。少しでも多くの国の事情が分かるという点で、国の数は多い方がよい。また、1班当たりの人数が多くない方が、役割分担もしやすい。一方で発表では、発表時間が短くなり、発表を聞く方も情報の整理がしにくかったと考えられる。



## 2) Societal (社会学的分野)

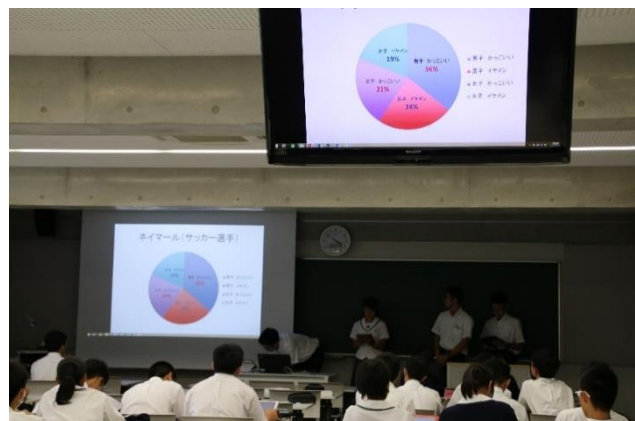
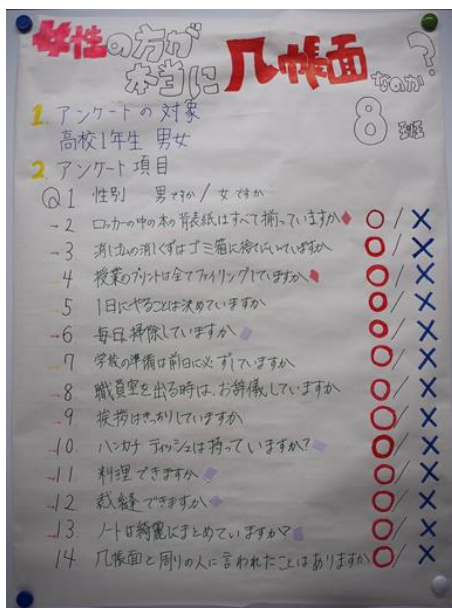
### 【意義・ねらい】

- ・表計算ソフトによる統計処理を実施する
- ・論理的思考力を養う
- ・人に質問することの難しさを体験する
- ・データから人を納得させる立論をする

### 【授業の流れ】

1回目	各学問領域の説明と社会学についての説明
2回目	アンケート実施についての説明と班活動によるテーマ設定
3回目	テーマとアンケートのアウトラインを決定し、概要のポスターを準備する
4回目	ポスターツアーを実施し、他の班からの意見をもらいアンケートの完成
5回目	アンケートの結果分析と推論の立案
6回目	発表の準備
7回目	発表
8回目	反省点と統計というものについての総括

### 【生徒作品・成果物】



## 【生徒の感想】

- ・配布資料を作らなかつたり、前を見て欲しいと促すことで、発表を聞いてくれる人達の視線を前に集めることができたと思う。
- ・創造的なテーマで、皆の気を引きつけることができた。具体的な数字を出した。自分の班に対する反省ができていた。
- ・アンケートの内容や、問題ごとの分析結果をパワーポイントに明示しなかつたので、伝わりにくかつたかと思います。また、アンケートから分かつたことを確定できず、統計結果を見て、考える時間が少なかつたです。
- ・みんなで集まって作らなかつたので、分析の種類が少なすぎた。テーマ自体がありきたりだったので目新しい発見がなかつた。もっともっと話し合いをすべきだつた。急いで作つたので、説明が不十分な点が多かつた。
- ・私のグループは最終評価で最高得点を取りました。しかし私がグループに貢献できていたかと言われれば胸を張つてはいと答えることができません。他のメンバーに任せきりになっていた部分も多々あります。急用により街頭調査に出られなかつたことは一番の心残りです。しかしグループでの活動は楽しかつたです。次回からはより積極的に活動しようと思います。
- ・大人数に正しく答えてもらえるアンケートを作ることがどれだけ難しいかと言うことを思い知らされました。
- ・アンケート集計に手間取つたり、結果が思うように行かなかつたり、アンケートにふざけて答えてる人が居たり、大変な点もありましたが、発表が終わると、達成感のようなものがありました。満足のいく出来ではありませんでしたが、よく見る調査というのがこのように出来ているのかと知ることが出来ました。Societal を選択するかどうかはまだ分かりませんが、次からはより頑張ろうと思います。
- ・それぞれの班に個性があり、楽しめた。特に、アンケートを取るために現地に赴く精神には感動しました。
- ・自分達が疑問に思つたことを客観的に捉え表現するのはかなり難しかつた。主観ができるだけ入らないようにするのは苦労した。また、アンケート作成の際の質問項目を構成するのが難しかつた
- ・今までに学んだことのない分野だつたため、今回行なつたアンケート調査、そして、その集計から結果を導き出すなどの経験は、今後のグローバルの活動や社会にでた時に役立つ経験で、またこれを機に社会学にも興味を持ち、とても充実したものになりました。
- ・社会学というものは未だによく分からないのですが、実際の societal の授業での活動を通して少し分かつたように思います。興味を惹かれる内容だつたのでもう少ししっかり班での活動が行えたら良かつたです。アンケート作成についての反省はとても大きく、もう少し仮定と求める結論をしっかりと見据えたアンケートに出来たら少し変わつていたのではないかと思います。そして社会的に言われている内容に関しても明確にするべきであつたと思います。発表においても堅く分かりにくい説明になつてしまつたと思うのでもう少し工夫するべきでした。
- ・アンケートにおいて色々な視点による考察、客観性や公平な判断をすることの難しさを感じました。また、プレゼンをする上で図やグラフ、文字の配置の重要性を感じました。

## 【講評】

決まつた答えがない課題に取り組むという経験が不足しているため、最初の方の授業が予想していたペースで進まなかつたため、後々のアンケートの作成や実施後の分析に十分な時間がとれなかつた。ただ、エクセルを使った計算や、プレゼンテーションソフトの使用など今後につながる技能の習得は進んだのではないかと思う。様々な経験の中で問題点を見つけ切り拓いていく能力をこの先も磨いてほしいと思う。

【意義・ねらい】

- ・ 英語によるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。
- ・ global issues に対する理解を深め、地球規模の視点でその問題について議論する。



【授業の概要】

(授業構成)

- ・ 1クラス (約40名) を約20名ずつのグループに分けて授業を行う。
- ・ 各グループに対し、日本人教員1名と外国人教員1名が指導にあたる。
- ・ 授業は基本的に英語で行い、生徒同士も原則的に英語で会話をする。
- ・ 1学期の授業回数は4回。

(活動内容)

- ・ 地球規模で取り組まなければならない諸問題に対する理解を深め、またその問題を語る上で必要な語彙を確認する。
- ・ 班ごとに取り組むテーマを決め、まずは個人で自宅のインターネット等を使用し、概要を調べる。
- ・ 持ち寄った資料をまとめる。
- ・ 用意した原稿を読むだけにならないように、発表の練習をする。(アイコンタクトや声の大きさ、ジェスチャーなど、プレゼンテーションの基本を学ぶ。)
- ・ 班ごとに、約5分間で発表。

【授業の流れ】

1回目	様々な global issues を理解し、自分の班が取り組むテーマを決定する。
2回目	テーマに沿った資料を持ち寄り、発表内容をまとめる。
3回目	ポスターなどを準備
4回目	プレゼンテーション



## 【生徒の感想】

### First Period

- Both teachers and we spoke only in English, which required concentration. I became exhausted after the class.
- I regret not expressing my opinion so much. Next time, I will try to speak as much as possible, even if my English is not good enough.

### Second Period

- Our group is going to talk about human rights. All the members have gathered lots of information. How to make it into a five-minute presentation is our problem.
- I realized gathering information is not difficult, but expressing our opinion is difficult.

### Third Period

- Today we discussed the outline of our presentation. It is difficult to talk about difficult topic in simple English so that the audience can understand.
- We made a draft in Japanese so it became much more difficult to translate it into Japanese.



### Forth Period

- I was nervous but I hope everyone understood our presentation. I heard many students say “え～っと” during the speech. I felt they were not good in speaking English.
- We practiced towards the presentation but once I stood in front of everybody, I felt really nervous. Next time I will practice more.

## 【講評】

(良かった点)

- 難しい単語は易しく言い換えたり、フリップに書いて用意するなど、相手に伝えようとする工夫が感じられた。
- 生徒同士でも極力英語で話し合おうとする姿勢が多く見られた。
- 英語力の足りなさを痛感し、これからもっと英語力を身に付けていこうと思えた。
- 班のメンバーに迷惑をかけないよう、自宅での調べ学習がきちんとできていた。
- 地球上の諸問題に対する知識を得て、自分なりに少し意見を持つことができた。

(今後の課題)

- Global Issues の解決策を話し合うまではまだ至っていない。
- さらにそれを英語で話し合う英語のスキルが不十分である。
- 原稿を見ずに発表が出来る生徒が少ない。
- 生徒が用意したポスターなどにスペリングミスも見受けられ、事前チェックが不十分であった。
- 今回は一方的な発表だったので、後期は質疑応答などにも耐えられるインタラクティブなプレゼン能力を目指したい。
- Global Issues に関連する知識や語彙をさらに増やす。

## 2. 二年生

### 2年 ①PESTゼミ

#### 1)Political (政治学的分野)

##### 【意義・ねらい】

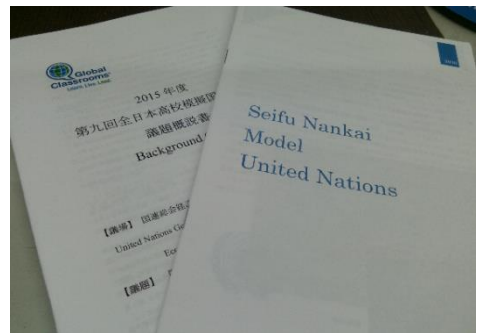
模擬国連では自らの担当する国の課題を探り出し、解決のための決議案を考える。そしてそれが決議となるよう、他の国から理解が得られるよう説明し、折衝する。この取り組みを通して生徒たちは、政治とは「最大多数の最大幸福」を実現するものであると実感し、自国だけの利益にとらわれてはいけけないということに気づくはずである。この自己にとらわれず多様性を認める姿勢こそ、生徒たちが政治を学ぶことを通じて身につけるべきものである。

具体的には①4～5名のグループに分かれ、担当国を決定、②担当国の政治・経済、課題等の調査、③発表準備・練習、④担当国代表として討論、という流れで展開する。

本年の前半は、第回全日本模擬国連大会の議題であった「移民問題」をテーマとし、模擬国連活動を行うことによって、他国への関心、課題発見・解決能力に加え、専門知識の取得（法令等の読解）、プレゼンテーション能力や表現力、交渉力などを養うことをねらいとした。

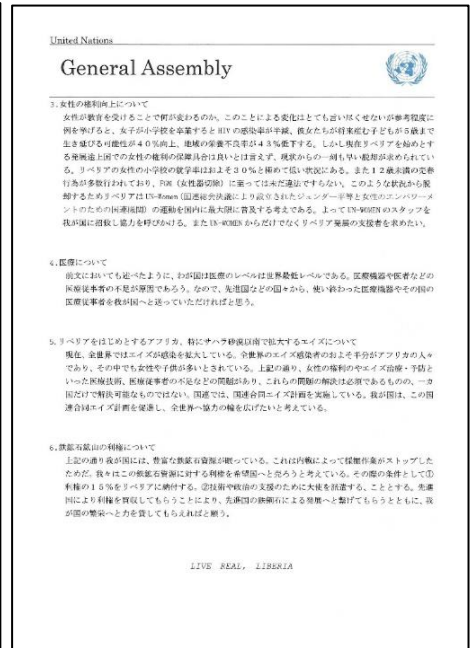
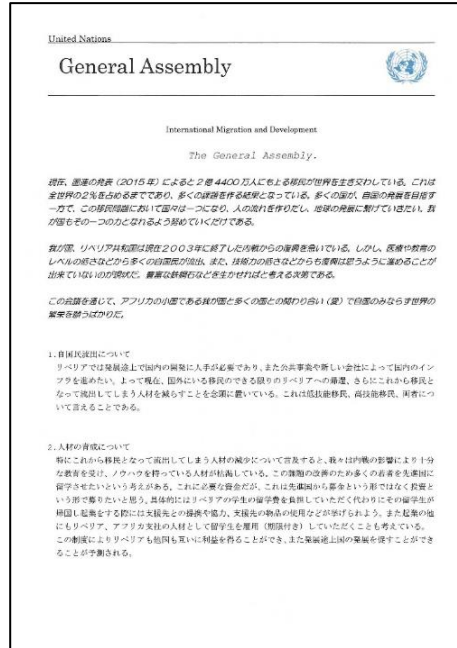
##### 【授業の流れ】

1回目	・オリエンテーション(模擬国連の紹介、今後の授業展開について、) ・議題発表、各国大使決定。
2回目	BG(Background Guide)説明用資料作成、PP(Position Paper)作成。
3回目	BG(Background Guide)説明用資料作成、PP(Position Paper)作成。
4回目	Policy Paper 作成。
5回目	議題についての勉強会開催。
6回目	スピーチ原稿作成。
7回目	第一回会議



## 【生徒作品・成果物】

### リベリアによる決議案 (日本語)



## 【生徒の感想】

- 私はギリシャを担当しましたが、かなり財政が厳しい、国際社会の信用が悪いとかなり決議案が難しかったです。しかし決議案の交渉の過程で調べてだんだんわかってきたのですが、実際ウクライナ情勢下での数少ない制空権やヨーロッパ最大クラスの未開発油田など、魅力の深い国だなあと改めて気づかされました。楽しい模擬国連でした。次はアルジェリアとの事で、どんな面白い所があるのか、どう組み込んで行こうか考えるのがまた楽しみです。ありがとうございました。
- 僕はリベリアを担当しました。最初は国の場所ぐらしか予備知識がありませんでしたが、インターネットや図書館などを利用して色々な情報を得て、会議に参加することが出来ました。そうはいってもそんなに多くの情報を得たわけではないので、推測などをして国の情勢を考え政策を作ったりしなければいけませんでした。自分になりきって何かをするというのは楽しかったです。
- 今回は、全体的に提出期限を守れなかったり、決議案をみんなで話し合っただけで決めなければならないのに、テスト前ということもあって、提出できず、吟味できるほどの情報を持っていなかった。せっかく模擬国連の場を設けていただいたのに、勿体無いと思う。次回は、議論をもっと有意義なものにしたいと思う。だが、今回の授業を通して、大体の雰囲気を知れたと思う。次回から、今回で得たものを十分に活用していきたいと思う。

## 【講評】

### 《良かった点》

- インターネットを用いて検索をする際に、日本語で調べるよりも英語で調べることで、より広範にわたる情報を収集することが可能であると気づき、積極的に活用できていた。
- 授業後のアンケートでは「興味・関心を持つことができた」「今後他の授業や行事において役立つと思う」「課題発見能力が伸長した」などの項目で、肯定的な回答が見られた。

### 《反省点》

- プロシージャによる解説だけでは会議の様子がイメージしにくく、会議の進行が遅滞気味であった。
- 「移民」に対する一般的な知識を持つことは出来たものの、各国個別の問題の追及が不十分であった。
- 自国の特殊意志を実現させようとするような議論が多く、他国の案と折り合いをつけて新しいものを作るという意識に欠けていた。

## 2) Societal (社会学的分野)

### 【意義・ねらい】

社会や人間そのものに対する考察を深める訓練を行う。具体的には、様々な具体的な事象に対する“分析”を行う訓練と、“分析”につながる資料集めのための“アンケート作成”の演習を行った。

“分析”に関しては、個人及び小規模のグループを作成した上で、身近な事象を探し、それに対する分析をした上で、個々に発表をした。また、三回目の SP に向けての班分けにおいて、コース生全体での会議が紛糾したことを受けて、議論における人の言動などについての考察を行った。

一方、アンケートの作成は三回行った。一つ目は、簡単な演習として、相関関係がありそうと思われる事象について列挙し、その相関指数を計算するというもの。分析可能な客観数字に置き換えるための問い方等を工夫した。二つ目は、タイへの研修旅行に向けて、訪問先の学校で行うエネルギーに関するアンケート調査の作成。簡単な問いを作成し、英語に直して実施した。三つ目は、班に分かれての SP が本格的に始まる中、SP の発表に役立てるために、班毎に調べたい項目を列挙してアンケートを作成した。

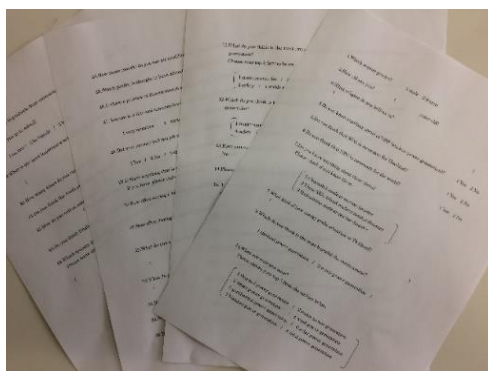
総合して、ゼミ活動としては、SP に役立てることを第一とした思考法の体得を目指した。

### 【授業の流れ】

1 回目	「自由に着席」と言われた時にゼミ生がどう着席したかの分析。
2 回目	「何でも分析してみよう」個人発表会 1 回目
3 回目	「何でも分析してみよう」個人発表会 2 回目 / 「相関関係のありそうなもの」プレスト
4～6 回目	相関関係のありそうなものアンケート項目作成
7 回目	SP 班分け会議についての分析
8 回目	相関関係のありそうなものアンケート集計結果計算
9 回目	タイ学校訪問アンケート結果分析 / SP アンケート作成
10 回目	SP アンケート作成

### 【生徒作品・成果物】

#### タイ学校訪問アンケート (英語)





## 【生徒の感想】

- ・教室の着席状況の分析をしました。授業が始まっていきなりだったので驚きました。しかし、分析するとなるとなかなか難しく何かと何かを比較してというような分析ばかりをしていました。個人が全体にといった視点での分析は始め、全くしていませんでした。分析はどんな物事もやろうとすれば出来るということが実感を持って分かりました。また、目的をもってしたほうが良いということも確かにと思いました。
- ・みんなでアンケートの項目を作りました。去年一回やっているのですが、すらすらいけるかなと思っていましたが、全然進みませんでした。ここまで考えて去年はやっていなかったのですが、本当はこんなに考えなければならなかったのだなと思いました。
- ・SPの班決めを反省をしました。Sの観点、人の心理のようなものから見るとなんかおもしろかったです。人の話をきちんと最後まで聞くこと。そのための全体の雰囲気。話をきいてもらえていないことによって感情的になってしまう。全体がうるさいから大きな声を出してしまう、そうすると自然と感情的になってしまう。何回も同じことを言うより、一回の方がその言葉に重みが出てくる。など、色々納得するところがあって勉強になりました。話し合いをするときは結局は人間同士なので、相手が良い気持ちになれるようにもっていくことが大切なのかなと思いました。また、前にたつ人間はいかなる時も中立でなければいけないと学びました。

## 【講評】

### 《良かった点》

- ・“分析”をテーマに、活動を進め、身近な事象に対する“気づき”を大切にできるようになった。
- ・アンケート調査を行うことで、回答者の心理を予想した問いの立て方等を意識出来るようになった。
- ・データの処理に際し、エクセル等情報処理の技術が向上した。

### 《反省点》

- ・次ゼミまで微妙に時間が空くためまとまった活動が難しく、集計結果に対する考察が不十分になった。
- ・タイの学校訪問アンケートについては、現地生徒が英語に不慣れだったため、調査結果に資料価値がなく、SPのための参考には出来なかった。



授業風景（全体ディスカッション）

### 3)Economic (経済的分野)

#### 【意義・ねらい】

経済と一口にいても、経済政策や企業行動、金融政策や株・為替などその対象は様々である。SPにつながる経済の知識を身につけさせるとともに、グローバルリーダーとしての資質や実際の進路選択にもつながる活動を考えた。その手段として、日本経済新聞が主催している日経ストックリーグと日経円ドルダービーを用いた。日経ストックリーグは大学生を中心としたポートフォリオ作成のコンテストであるが、高校生や中学生も参加し、高校生が優勝しているものである。様々な社会的な問題をテーマにし、企業活動を研究しながらポートフォリオを組むことで経済的な考え方や知識が身につけられる。円ドルダービーは為替予測コンテストである。為替の予測は不可能だが、金融政策や国際関係など幅広い知識の習得につながる。

#### 【授業の流れ】

1回目	テーマ設定
2回目	円ドルダービー発表と班活動
3回目	ストックリーグ班のテーマに関する発表
4回目	関西学院大学経済学部 平山教授の講演
5回目	各班の活動
6回目	円ドルダービー発表とストックリーグ班のテーマに関する発表
7回目	各班の活動
8回目	円ドルダービー発表と班活動
9回目	各班の活動
10回目	円ドルダービー発表とストックリーグ班のテーマに関する発表

発表ではルーブリック評価を行った。事前にルーブリック評価表を生徒に渡しておき、その評価が高くなるように発表するように指導した。

#### 【生徒作品・成果物】


ストックリーグ班のうち2班のテーマに関するスライド

{②-2} 投資テーマ

Quality of Life

私たちは、私たちに様々なアプローチの方法で“豊さ”を与えてくれる企業を応援します。

AIの発展



人間のアイデンティティー

## 【生徒の感想】

テーマ選定もちょっとずつ進み日経ストックリーグが楽しみになってきました。

今日は僕の班の課題のテーマについて発表する日でした。自分で作ったグラフがいかに適当だったかということがわかってよかったともいます。

ランダム walk のグラフにとっても興味がわきました

平山先生はたくさんのスライドを用意してくださっていたのでどれを質問しようか悩んでいた結果、自分たちの円ドルダービーとはあまり関係のないことを聞いてしまいました。でも、先生はわかりやすく説明してくださってありがたかったです。経済の公式も面白かったです。

7月末の為替予想を作成しました。先月はイギリスのEU離脱という想定外のイベントがあり、予想を大きく外してしまいましたが、今月は大きなイベントがなく、軸として取ったイギリスEU離脱の飛び火・イギリスの国民投票のやり直し・FOMCの利上げについては予想しやすかったので、大方予想が当たるのではないかと期待しています

6月の為替と7月末の予想について発表しました。事前にほとんど準備できていなかったのだからとした発表になってしまいましたが、重要なことは伝えられたと思います。これからは夏休み明けに向けて、9月末の予想のための情報収集をしたり個別テーマを考えたりしたいです。



## 【講評】

ストックリーグ班の前半は、テーマ設定に時間がかかった。3回目の授業では班でどのようなテーマにしたいかを発表させた。ここでは経過報告という形であったが、班でテーマを決めるのに苦労が見られた。最初は前年度の入賞作品などの前例研究をして、レポートでどのようなことが求められているのかを知る活動をすべきであった。本格的にテーマを絞り出せたのは夏休み以降となった。後半は各班が決めたテーマについて活動を行う。

円ドルダービー班は、6月末、7月末、9月末の為替を予想した。期間中、イギリスのEU離脱や日米の金融政策といった評価の難しい出来事が多く、予想は難しかった。また、それらの内容を詳しく調べる情報(ニュースソース)が有料で、分析が十分できなかった。

関西学院大学経済学部教授の平山健二郎先生に講演とストックリーグのテーマ設定のアドバイスをいただいた。10回目の授業ではプレゼンに対して多くの助言をいただいた。また、メールでの質問にも答えていただける体制を整えてもらい、心強い存在となっている。

#### 4)Technological (科学技術的分野)

##### 【意義・ねらい】

現在の世界が抱えるエネルギー問題について幅広い知見を身につける。そのために様々な電力問題や発電方法について学習する。中でも、化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして政府が導入・普及の促進を目指す再生可能エネルギーについて深く考える。これらを包括的に学習してシナリオ・プランニングに備える。

##### 【授業の流れ】

1回目	ガイダンス
2回目	火力発電・水力発電について
3回目	地熱発電・バイオマス発電・太陽熱発電・波力発電について
4回目	原子力発電について
5回目	英語論文の読み方（太陽電池について）
6回目	太陽電池を用いた実験
7回目	太陽電池のメカニズムについて

「太陽電池の本」(産業技術総合研究所 太陽光発電工学研究センター著 日刊工業新聞社)をテキストとして用いた。正確な知識に基づいた議論をするためにも、内容を解説することから始めた。疑問点を解決するための辞書的な使い方もできることに気づいたせいともいる。太陽光発電以外の発電については参考資料を配布して、議論や発表を行った。京都大学化学研究所から研究論文(日本語・英語)を頂き、世界の最先端で行われている研究内容に触れる取り組みも行った。

##### 【生徒作品・成果物】



## 【生徒の感想】

- ・ 太陽熱発電や地熱発電について議論しました。風力発電と同様に、特に地熱発電は日本にとって重要な再生可能エネルギーなので、長所と短所を他の発電方法と比べて把握したいと思います。
- ・ 英語の論文は専門用語など難しすぎました。
- ・ 実験でした。めっちゃ楽しかったです。
- ・ 蓄電池の具体的な活用法についての記事を読んだ。再生可能エネルギーによってつくられた電気をためられるというこのシステムがさらにもっと全国に普及していけばと思う。
- ・ (夏期実習を終えて) 本を読んでいてもあまりわからないところがありましたが、研究所では研究員の方が親切に教えてくれたのでとても分かりやすく理解しやすかったです。

## 【講評】

### 《良かった点》

- ・ 発電の主なもの（火力・水力・原子力）の長所・短所、仕組みなどを科学的な視点から捉えることができた。
- ・ 次世代のエネルギー(太陽光・風力・波力)などの基本原理と長所・短所、仕組みなどを科学的な視点から捉えることができた。
- ・ 太陽光発電については、現在研究開発が行われている京都大学化学研究所で実習することができた。
- ・ 科学的に関する文献(日本語・英語)を読む機会が増えたことで、科学的に考え考察できるようになった。
- ・ 科学的な内容をレポートにまとめ、プレゼンテーションをすることで、客観的かつ論理的思考にできるようになった。

### 《反省点》

- ・ どの内容も深く理解し考察するには時間が不足していた。
- ・ 科学的・論理的な内容に重点を置いたが、エネルギー問題に関する社会的・政治的な捉え方がそもそもできていない。
- ・ 内容によっては専門的で理解が困難なものがあった。
- ・ 論理的な思考ができるように訓練したかったが、時間が十分ではなかった。



## 2年 ②シナリオ・プランニング (SP)

### 【意義・ねらい】

シナリオ・プランニングの手法を学び、未来予測を行うことで、論理的な思考力の育成を行う。具体的には三回の SP を行った。

#### ①身近なテーマについてのシナリオ・プランニング

テーマは「ICU 教育」「USJ」「ゲーム産業」の3種類を用意した。最初ということもあり、手順を学ばせることを第一に、生徒にアンケートを行い、興味のあるテーマに振り分けて、班構成も行った。

#### ②「大学」をテーマとしたシナリオ・プランニング

本来 SP は大人数で行うことで多様性を確保するものであるが、一回目の SP では手順をまだ理解していない生徒が多くあり、全員が SP の全体像を把握するために、トーナメント方式の個人戦（一人3分）を行った。

#### ③「エネルギー」をテーマとしたシナリオ・プランニング

本校の SGH 構想のテーマが「未来のエネルギー事情」ということもあり、三回目の SP のテーマは「エネルギー」とした。卒業論文に直結する回ということもあり、各班の構成も生徒全員で会議を開いて、できる限り多様性を確保できるように工夫した。

### 【授業の流れ】

1 回目 (4 月)	「ICU 教育」「USJ」「ゲーム産業」についてのグループ SP
2 回目 (5・6 月)	「大学」についての個人 SP
3 回目 (7～10 月)	「エネルギー」についてのグループ SP

### 【講評】

《良かった点》

- ・生徒の論理的思考力を高めるという意味では、非常に有意義な手法であったと思われる。
- ・多様な意見が必要となる SP を通して、自然と視野が広がり、他者の意見に対しての受容性が高まったように感じられた。
- ・SP の一連の流れについて、ワークシートを冊子の形で作り、教材化の基礎を築くことができた。

《反省点》

- ・三回の SP が必要だったと思われるが、必然的にそれぞれにかけられる時間が短くなってしまった。
- ・教授法を作成途中であるということもあり、生徒へのおろし方がスムーズではなかった。
- ・思考力を育てる訓練ではあるが、それだけに難しく、生徒一人一人に理解させるには手間も時間もかかる。各班の発表にはよりいっそうの時間を割いてあげたかった。

## 【生徒の感想】

### 《SP 1 回目》

- ・大変でした... はっきりいって少し苦痛ではありましたが、難しい議題だけに、意見が対立し大変でしたが、よい経験にはなったと思います。個人戦で生かして生きたいと思います
- ・全体を通して、とりあえず楽しかった。考えたことがありそうで、簡単に思えても実際にいざしてみると、自分の言っていることが多々矛盾しているし、経験や情報が少ないので、相当に難しかった。ただ、1回 SP をしたことによって学んだことはとても多いと思う。次回、個人で2回目の SP を行うが、どのように改善すべきか、軸の設定の仕方や、焦点の絞り方など、明確になったわけではないが、トライしてみる価値は大いにあると思うし、今回の授業で学んだことを実践できたら、大きな一歩だと思う。今回はただ「SP」を行っただけに過ぎないが、それを実践で生かせるようにしていきたいと思う。
- ・初めはテーマ、軸をどのように決めれば、シナリオがうまく運ぶのかわからず、話し合いが進まなかったが、やっているうちにわかってきた。次回の SP では今回よりも円滑に進むと思う。自分にかかわる話として考えなかったため、シナリオをつくる意義がわかっていなかったが、次回はその人の立場に立って考えていく必要がある。そうすれば、もっと論理的に話が進むと思う。

### 《SP 2 回目》

- ・授業で発表したときは、緊張して手汗もかいたし、手がすごく震えました。自分は言うまでもなくみんな少し詰めが甘かったり、したのですがみんな一人にしてはよく頑張ったのではないかと思います。それにテーマが個性豊かなものが多かったので、聞いていて飽きませんでした。そして、7限の総合の時間での発表ではみんなも盛り上がって楽しかったです。次の SP ではもっと下調べして頑張ろうと思います。
- ・今回は個人戦ということで、自分の興味ある分野でシナリオ・プランニングして楽しかったです。しかし、発表の時に3分の中でうまくまとめることができなかつたのが心残りです（恒例の情報量多すぎ）。今回でSP一連の流れをつかめることができたと思いましたので、次回のSPにつなげていきたいと思います。
- ・一人でのSPは正直しんどかったです。影響因子とか2軸設定とか難しいと感じました。だから、ほかの人の発表を見た時に、一つの物事に対する見方・視線がたくさんあって、すごいと思っし、見習いたいと思いました。また、発想が豊かでシナリオも論理的で、振り返ってみたら自分はまだまだやったと思いました。もっと物事を論理的に見ていきたいと思います。

### 《SP 3 回目》

- ・それぞれの班が全力を尽くした結果、こんな良いものができるのかと改めて驚きました。力をつけてきているのだなと実感しました。今回私たちの班は、他の班に負けてしまい、残念な結果になってしまいましたが、国際シンポジウムまでに、より深く、面白く、驚かせられる SP にするため、この残り2週間、さらに頑張っていきたいと思います！
- ・今回の SP はみんなほんとに頑張っていたと思う。エネルギーというお題で、他の班と被ってしまうものも多かったのにも関わらず、各班がオリジナリティを出していたのがほんとに良かった。それと、準備期間が短かったので、みんな毎週のように集まっていた。その努力が実った今日の発表は本当に感動した。みんな最高でしたっ！！
- ・単刀直入に楽しかったです。この班で楽しめて良かったです。論理に矛盾をきたしていた...！ということが、前日の21:00くらいに発覚して、このままだと SP にならない、と思い、みんなと夜更かししました。いい思い出になるだろうなあ、と、寝不足の中思っていました。プレゼンそのものは時間が足りないから絶対に省いた方がいいだろうなあ...と思いつつも、皆の頑張りをしていると止められないな〜と、心で分かっていたんだなと、今になって思います。もしプレゼン班に選出されたなら、その辺は苦言になるかもしれませんが、言おうと思います。また、プレゼンそのものについては、本当に、時間が短すぎます。それでも間に合わせるように私たちがならないといけない、先生方もちゃんと考慮してくださってのこれだ、と分かっているつもりですが、今回ばかりは痛感致しました。さらに、発表するだけでなく、発表を聞く際にも、連続で行い、それなりに専門性のある用語が飛び交い、その上早口なものを聞かなければならない... 正直、入ってこない... 本当に、申し訳ないと思います。総合して、前述にある通り、楽しかったです。

### ③ Global English for 11th Grade Students

#### 【Significance and Aims】

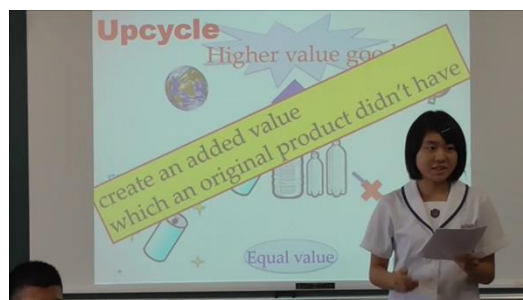
- To deepen their understanding even more about how global issues affect our future life and what we can do to minimize their impact.
- To improve their communicative competence and acquire the necessary knowledge and skills to clearly tell others their ideas and opinions on more complicated matters.
- To polish up their presentation skills.

#### 【Outline of the Lessons】

- The students of a class (about 40 students) are divided into two groups.
- Classes of each group are conducted by one Japanese and one foreign teacher.
- Every class is conducted in English and the students are also supposed to speak English.

#### 【Activities】

- Deepening the understanding about the global environment, which leads to a reflection on various energy issues.
- Discussing some issues with their friends, broadening their horizons.
- Telling their ideas again and again to different people, refining their ideas.
- Delivering a presentation in a more sophisticated way than last year.



#### 【Flow of the Lessons】

##### 1<sup>st</sup> lesson

Understand how green we are and think about how we waste energy and contribute to global warming.

##### 2<sup>nd</sup> lesson

Talk in groups about what we can do to decrease the impact of energy waste in our daily lives, get their own ideas in shape and write a short essay.

##### 3<sup>rd</sup> lesson

Pair themselves and tell their partner about their ideas, asking questions to make sure they understand the partner's ideas completely.

Change partners and again tell their new partner about their ideas, but this time they have to be careful to make their ideas clearer and easier to understand.

Change partners once again and tell their still new partner about their ideas in a more refined way.

##### 4<sup>th</sup> lesson

Each group prepares for the presentation. They use other students' ideas as reference, improve their own ideas and prepare for their presentations.



### 5<sup>th</sup> lesson

Each group delivers a presentation of what they think we can do to decrease the impact of energy waste by using a computer and other props.

### 6<sup>th</sup> lesson

Watch the video tape of their own presentations and reflect on what worked and what didn't, figuring out how they would be able to improve their presentations and English skills, with some advice from teachers and university students who graduated from Seifu Nankai.



#### 【Comments】

- Many good presentations. The explanations were very easy to understand.
- There were a lot of well-organized and very logical presentations.
- It was very good to present a lot of specific data that supports your opinion.
- Your group made your ideas very clear and I was able to easily understand what your group was trying to argue.
- Your group showed graphs and pie charts very effectively. They really helped us to understand your ideas and opinions.
- The delivery was very good. Your group used the Power Point slides skillfully.
- Your ice-breaking jokes were fantastic!

#### 【Advice】

- Don't read the script, especially without any intonation.
- Make eye contact and talk to the audience.
- Demonstrate well-grounded data and information.
- Use more data and articles supporting your opinions.
- Make sure that your explanations are logical.
- Remember to logically and critically analyze the data you have collected.
- Check your pronunciation.  
(It may be a good idea to practice with your friends so that you can find each other's mistakes.)
- Remember that Power Point should be used just to help the audience have a better understanding of your presentation.

## 生徒名簿

### 1 年生

#### A 組

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
1				S3
2			S	
3		映像		S4
4		映像		S5
5				P4
6			P	
7				S5
8				P3
9			S	
10				P1
11				S2
12				P2
13				P5
14			S	
15				S4
16				P2
17				P4
18				P1

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
19				S2
20			S	
21				S3
22				S1
23				S5
24				S1
25				P4
26			P	
27				S4
28				P3
29				S5
30			P	
31				S3
32				P2
33				P5
34				S1
35				S2

#### B 組

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
1				S2
2			S	
3				S4
4				S1
5		司会		P4
6				P3
7				P4
8			S	
9				S4
10				S1
11				S3
12				P2
13				P5
14			P	
15				S4
16			P	
17				S1
18				P1
19				P4
20		映像	P	

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
21				S5
22		映像	S	
23				S3
24		司会	S	
25				S1
26		映像	P	
27				S4
28		総括補佐		P3
29				S5
30				P1
31				S3
32				P2
33				P5
34				P3
35				P2
36				P1
37				P5
38				S2
39				S5
40				S2

## 2年生

### A組

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
1		親睦会		SP5
2				SP4
3			SP1	
4			SP2	
5		親睦会		SP3
6				SP7
7				SP6
8				SP7
9				SP4
10			SP1	
11				SP3
12		親睦会		SP8
13				SP8
14				SP3
15				SP5
16			SP2	
17		映像		SP4

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
18				SP7
19		親睦会		SP4
20				SP4
21				SP7
22		親睦会		SP6
23		司会/親睦会		SP3
24			SP2	
25			SP1	
26				SP7
27				SP5
28			SP2	
29				SP4
30			SP1	
31		親睦会		SP7
32		映像/親睦会		SP6
33				SP4

### B組

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
1		PD		SP5
2		PD	SP2	
3				SP5
4				SP3
5			SP2	
6				SP4
7			SP1	
8				SP6
9				SP6
10		司会		SP3
11				SP3
12		PD		SP8
13				SP3
14			SP1	
15		映像		SP6
16				SP5
17		親睦会	SP2	
18		映像		SP7
19				SP7
20				SP8
21		親睦会		SP6
22				SP5
23				SP6

No.	氏名	役割	プレゼン	ポスター
24				SP5
25		PD		SP3
26				SP8
27				SP4
28		映像/親睦会		SP6
29				SP7
30				SP6
31				SP8
32				SP8
33				SP8
34			SP2	
35			SP1	
36			SP2	
37				SP4
38		総括補佐		SP8
39				SP5
40				SP8
41				SP4
42			SP1	
43				SP3
44			SP1	
45				SP5

PD：パネルディスカッション

## 編集後記

清風南海高等学校  
SGH プロジェクトチーム

本冊子は「シンポジウムに参加の外国の方にも読めるものを」との発想から、英訳を可能な限り多く取り入れる方針で編集した。時間的な面、特に英語科教員の仕事の面で苦しくなったが、何とか形ができて上がってホッとしている。

SP（シナリオ・プランニング）という、高校生にとっては厳しく・高いハードルを課してみようという発想から生まれた、本校のSGH（スーパーグローバルハイスクール）である。さらにその上に、今回の「未来を考える国際シンポジウム」を行うことを試みた。

本校が培ってきた国際交流の実績など、私立学校である強みを生かしつつ、苦しみながらも何とか準備を進めることができた。「場」の設定により、生徒だけでなく指導する教員についてももしっかり取り組むことを促すことで、それぞれ大きく成長したと思う。

結果はどうあれ、この冊子が「やってみたこと枠組みの記録」となり、次の飛躍への礎となれば幸いである。



## 今後の予定

◎平成 28 年 2 月 23 日 (木) 「平成 28 年度中間発表会」 於、本校

### 1. スーパーグローバルハイスクール平成 28 年度後半の諸活動の報告

- ① 「未来を考える国際シンポジウム」を終えて
- ② 2 年生の SP（シナリオ・プランニング）を中心とする活動について
- ③ 1 年生の PEST や GE 等の活動について

### 2. 2 年間の SGH 活動のまとめ

### 3. 3 年目の SGH 活動について





清風南海学園 中学校・高等学校

Tel 072-261-7761

Fax 072-265-1762

<http://www.seifunankai.ac.jp/>